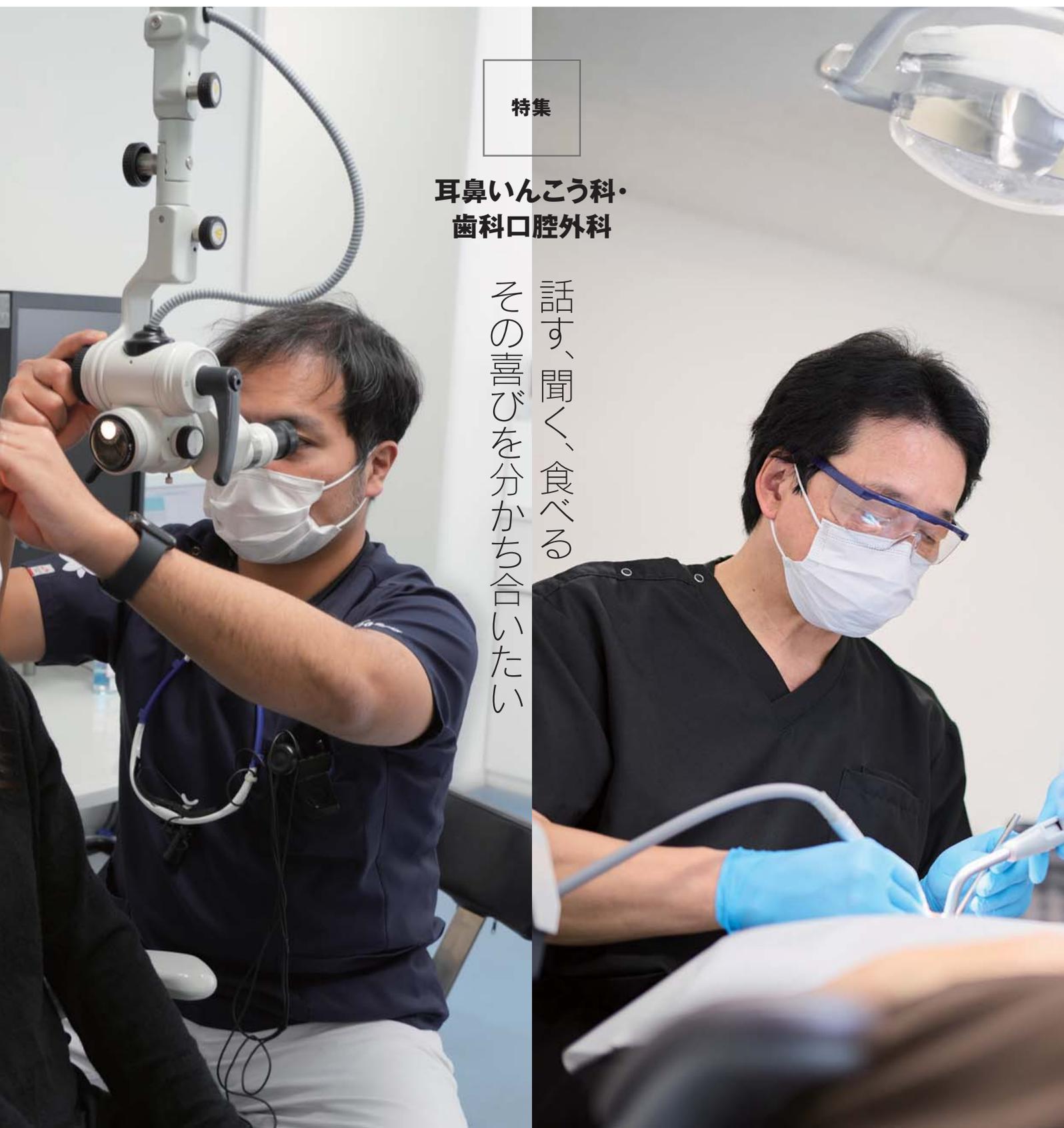


# TEAM

特集

耳鼻いんこう科・  
歯科口腔外科

話す、聞く、食べる  
その喜びを分かち合いたい



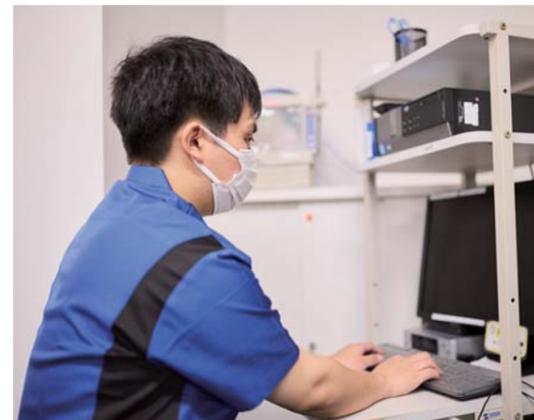


## 患者さんの日常生活に寄り添う。

耳鼻いんこう科の領域は患者さんにとって日常生活に直結し、受診する方は生活する上で不都合が起きている状態です。例えば耳は難聴・耳閉感・めまい、鼻は鼻汁・鼻閉・嗅覚障害、咽喉頭はのどの痛み・嚥下障害・声のかすれなど様々な症状があります。当科は「みみ」「はな」「のど」および「くび」に関する様々な症状に対処します。当院は日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設であり、耳鼻咽喉科専門医が常勤し、救急疾患から慢性疾患まで幅広く対応します。上記症状でお困りの患者さんが元気になる、普段通りの日常生活に戻ることをお手伝いするのが耳鼻いんこう科です。

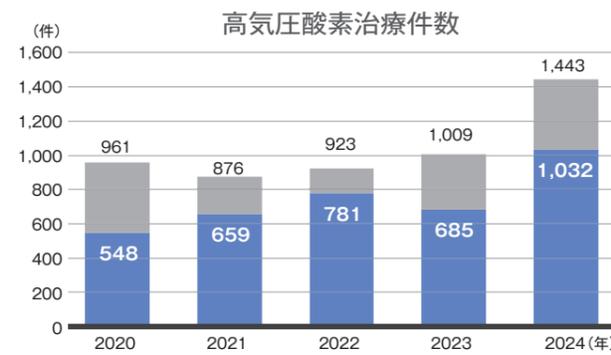
## 先進機器を 駆使した難聴治療も 積極的に。

**耳** 難聴には様々な原因があります。当科では突発性難聴に対してステロイド投与だけではなく、高気圧酸素療法を併用することで早期の難聴改善を行うように努めています。慢性中耳炎や鼓膜穿孔による伝音性難聴には顕微鏡下で鼓膜形成術を行っています。主に、小児に多い中耳炎に対しては鼓膜チューブ挿入術を行っています。また、補聴器が必要な患者さんに対しては、補聴器相談医の資格をもつ専門医が装用のアドバイスをし、月・水・木曜日に補聴器外来で補聴器の調整を行っています。



### 臨床工学技士

当院は、高気圧酸素治療装置(2台)を保有する福岡県でも数少ない医療機関です。突発性難聴に対して標準治療と併用して行うことができ、低酸素に起因する疾患に効果が期待できます。患者さんに高気圧環境下の治療用タンク内へ入っていただき、高濃度の酸素を吸入します。治療時間は加圧と減圧含めて約90分の時間を要します。その間、臨床工学技士は治療装置の管理及び操作を行い、治療に伴う耳痛や急な体調不良時に対応できるようにしています。年々治療件数は増えており、2024年の実績は1,443件で、突発性難聴の治療は全体の約7割を占めています。その他では眼科・外科領域の疾患、また一酸化炭素中毒などの緊急性の高い疾患にも対応しています。この治療を受けられるほとんどの患者さんは初めての方が多く、あまり馴染みのない治療に不安を抱えられる方もいらっしゃいます。治療に対する不安を少しでも減らせるように、事前の治療説明や治療前後の患者さんとのコミュニケーションを大事にしています。



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	合計
突発性難聴	548	659	781	685	1,032	3,705
全体件数	961	876	923	1,009	1,443	5,212

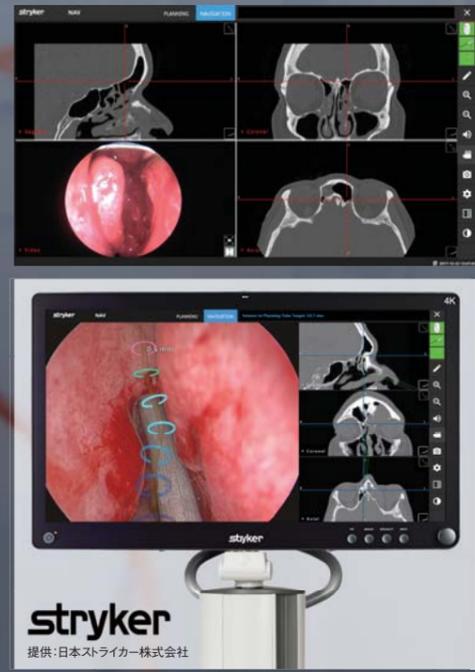




2024年  
手術件数 **531**件

より低侵襲に、より安全に。  
進化する術式。

**鼻** 鼻が詰まる、匂いがしないなどの鼻腔通気障害は、副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎、肥厚性鼻炎などにより引き起こされます。当院では投薬治療はもとより、アレルギー性鼻炎に対しての舌下免疫療法を行い、内服治療で治療改善が乏しい方には、内視鏡下での副鼻腔手術を行っています。内視鏡を用いた低侵襲手術は、従来の口の中からの手術に比べて、術後の顔の腫れはほとんど起こりません。また、解剖が複雑な患者さんへは令和6年度より導入したストライカー社製ナビゲーションシステムを活用し、より安全に手術を行っています。高度なアレルギー性鼻炎や、血管運動性鼻炎など内服薬・噴霧薬で十分な効果が得られない場合には、鼻の神経の1つ「後鼻神経」を切断することで鼻水やくしゃみといった症状の改善が望めます。



## 会話や食事など “生きる力”を サポート。

### 咽喉頭

「のど」と呼ばれる部分は咽喉頭と喉頭に大別されます。咽喉頭は話す・食べる・呼吸するなど生活に必要な場所です。しかし、咽喉頭炎や扁桃炎など感染症に罹患することが多く、症状が悪化すると話しくなくなったり、食事が取りづらくなるため、入院し治療を行うこともあります。当院では急性咽喉頭蓋炎や扁桃周囲膿瘍など気道閉塞をおこす可能性のある緊急疾患にも対応しています。手術では慢性扁桃炎に対する両側口蓋扁桃摘出術、睡眠時無呼吸症候群に対する軟口蓋形成術を行っています。この他に唾液腺疾患では耳下腺腫瘍や顎下腺腫瘍に対する唾液腺腫瘍摘出術も行っています。当院では、飲み込みが悪い患者さんや入院・外来患者さんの食事形態の確認や選定目的のために、嚥下外来を言語聴覚士と摂食・嚥下障害看護認定看護師、薬剤師、管理栄養士と一緒にチームを組み、患者さんにとって適切な食事方法を決定しています。



耳鼻いんこう科 専門医のご紹介

## 刻々と変化するニーズを読み、 地域に幅広く貢献すること。

耳鼻いんこう科 部長 田畑 貴久  
産業医科大学出身

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門医
- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医
- 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医
- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定聴音性難聴担当医
- 産業医学総合実習修了者



耳鼻いんこう科 医員 田中 隆行  
久留米大学出身



耳鼻いんこう科 医員 榊 和哉  
聖マリアンナ医科大学出身



耳鼻いんこう科 医員 藤井 健太  
産業医科大学出身



多職種連携という総合力を、  
患者さんのために。



**増加する摂食嚥下障害を「嚥下チーム」で解決。**

当院では耳鼻いんこう科医師を中心に、言語聴覚士、摂食・嚥下障害看護認定看護師、管理栄養士、薬剤師で構成された嚥下チームがあります。主な活動は、週3回、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を実施し、患者さんの現在の嚥下機能評価を行い、食事内容の調整、嚥下訓練の検討を行っています。現在、高齢化が加速している中、摂食嚥下障害のため誤嚥性肺炎を発症する患者さんや、入院時にすでに十分な経口摂取ができていない患者さんが増加しています。また、入院後も高侵襲の治療や疾患のため、急激な筋力低下による摂食嚥下障害を認める事もあります。摂食嚥下障害は、窒息や誤嚥性肺炎を合併し、十分な栄養確保も困難となり、予後にも大きく関わる障害です。しっかりと評価をしながら、安全な食事の提供や栄養管理、低下した機能を改善するための訓練が行えるように、チームカンファレンスを通して多職種で検討しています。また、近年では耳鼻いんこう科外来へ飲み込みにくさの訴えで受診される患者さんも増加傾向にあります。外来受診の中でも可能な範囲での嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を行い、栄養指導や摂食・嚥下障害看護認定看護師による指導を行っています。今後、更に増えることが予測される摂食嚥下障害を抱えた患者さんに対応できるように、耳鼻いんこう科外来での対応の拡充を検討しています。地域で生活されている患者さんの不安や困り事に寄り添えるように今後も嚥下チームの活動を発展させていきたいと思ひます。



**嚥下内視鏡検査 2024年**

**176件** 嚥下造影検査 **15件**



**OCST介入件数 2024年**

**212件**

介入患者の転帰  
 症状改善 34名  
 退院 11名  
 転院 32名  
 その他 48名

**チームで考え、担う。合併症を抑えるオーラルケア。**

Oral Care Support Team (OCST)は、口腔ケアをサポートするチームとして、歯科医師、歯科衛生士、摂食・嚥下障害看護認定看護師、言語聴覚士で構成されたチームです。入院患者さんの中には、意識レベルの低下や身体機能の問題から、ご自身で口腔ケアができない方が多く、口腔内環境が悪化していると苦痛を伴います。口腔内は数億から数十億の細菌がいると言われており、入院による全身状態の変化によって口腔内細菌を原因とした合併症を起こすことも少なくありません。そのため、口腔内環境を整える口腔ケアは重要なケ

アと言えます。重点的に口腔ケアが必要な患者さんに対し、病棟看護師と協働して摂食・嚥下障害看護認定看護師が日々の口腔ケアを行い、歯科医、歯科衛生士による専門的口腔ケアを定期的に行っています。毎週水曜日にOCST回診を行い、口腔内評価スクリーニングを用いて口腔内評価を実施し、今後のケア方針を確認しています。今後も口腔ケアを通し、患者さんの合併症の予防、苦痛の軽減を目指し院内の口腔ケアをしっかりとサポートできるようなチームで尽力していきます。

**言語聴覚士と共に口腔機能低下症に対応**



**健口(けんこう)を目指して、お口から全身の健康を支える**

加齢により口腔内の感覚、咀嚼、嚥下、唾液分泌等の機能が少しずつ低下してくる症状を「口腔機能低下症」といいます。放置すると、咀嚼障害、摂食嚥下障害などの口腔機能障害を引き起こし、低栄養やフレイル、サルコペニアを進展させます。50代の2人に1人が口腔機能低下症に該当すると言われており、当院でもOCSTを中心に2024年から口腔機能低下症に対する取り組みを開始しました。嚥下評価を行う言語聴覚士がピックアップした患者さんを対象に、OCSTで口腔機能精密検査を実施しています。口腔機能低下症の診断がついた患者さんには、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士による口腔機能の訓練指導、栄養・生活指導を行い、「健口」への意識付けや取り組みを行っています。



## 総合病院歯科として 「病診連携」を重視。

総合病院における歯科の役割とは何でしょうか。当院は地域の救急医療を担っており、外傷や炎症などの患者さんが数多く受診されます。その中には、顎骨骨折や歯牙損傷、顎顔面領域の炎症など、歯科に関わるべき患者さんもあります。また、入院患者さんの中には口腔内の問題を抱えている方が多く、安全な手術や質の高い治療のためにも、「医科歯科連携」による口腔機能管理が重要な要素になります。総合病院の歯科には、地域の歯科医院とは異なった役割があります。それ故、地域歯科医院との連携、すなわち「病診連携」がとても大切であると考えています。

### 福岡徳洲会病院は 2025年4月「地域がん診療連携拠点病院」に!

#### がん診療連携拠点病院における歯科

- ①手術や化学療法・放射線治療を行う際の口腔機能管理
- ②骨転移に対する骨吸収抑制薬使用時の口腔内評価と治療
- ③緩和医療における口腔内の痛みと食べる機能の改善

私達は、がん治療中の患者さんに歯科として関わり、より質の高いがん治療を受けていただけるよう尽力しております。

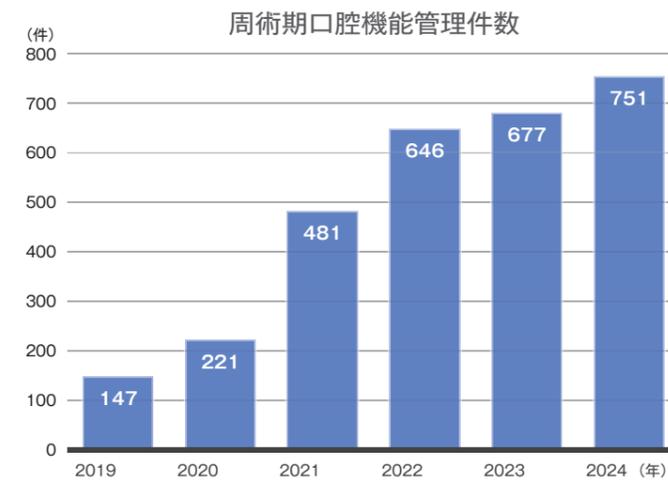
## 周術期の細やかな 口腔機能管理

### 手術前後

口腔内細菌による手術創感染や術後肺炎を防ぐためには、周術期において口腔内を清潔に保つことが必要です。そのため、周術期における口腔ケアや口腔衛生指導を行っています。また、安全な全身麻酔のために、動揺歯の処置も行っています。

### 化学療法・放射線治療

化学療法などにより、口腔内にも様々な副作用が現れることがあります。患者さんを苦しめる口内炎の多発や口腔乾燥に対処しています。



当院医科各診療科との連携強化により、周術期口腔機能管理の件数は年々増加しています。



## 外傷

交通事故や転倒転落などによる顔面外傷では、顎骨骨折や歯牙損傷を伴うこともあります。歯の脱臼や破折、歯槽骨骨折の治療を行っており、顎骨骨折は形成外科と連携して治療にあたります。

## 口腔粘膜疾患

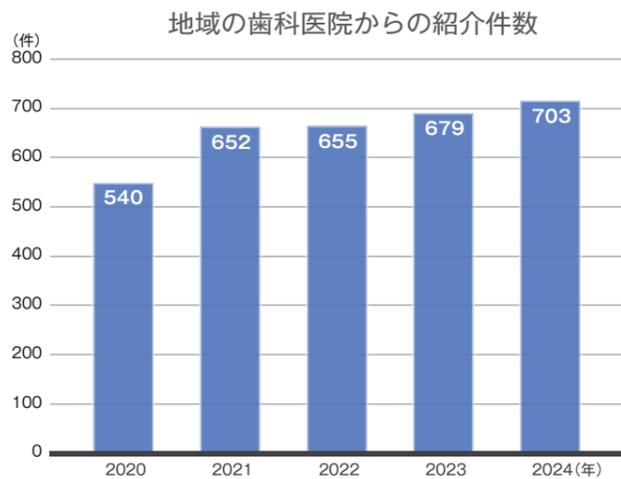
口腔カンジダ症やヘルペス口内炎、口腔扁平苔癬などの口腔粘膜疾患の治療を行っています。悪性疾患が疑われる場合は、大学病院や九州がんセンターをご紹介します。

## 炎症

顎顔面領域の炎症は、耳鼻いんこう科と連携して治療します。歯原性の炎症は、当科で原因歯の治療を行います。

## 難拔牙などの小手術

難易度の高い拔牙や嚢胞摘出、良性腫瘍の切除など、外来で行える小手術を行っています。全身疾患のある患者さんは、モニタリング下での処置を行います。対象となるのは、主として地域の歯科医院から紹介していただいた患者さんです。



## 病院歯科における歯科衛生士

通常の歯科衛生士業務に加え、入院患者さんの口腔内を清潔に保つため、病棟往診での口腔ケアも行っています。また、様々な全身疾患に起因する口腔内出血や多発潰瘍、口腔乾燥などで口腔ケアが難しい患者さんがいます。そこで歯科衛生士は、患者さん一人一人の状況に応じた口腔ケアを実践しています。

## 歯科口腔外科 専門医のご紹介

# 質の高い治療と、地域と共にある歯科を目指して。



### 歯科口腔外科 部長 怡土 信一

九州大学歯学部出身

- 日本歯科麻酔学会認定医
- 日本歯科麻酔学会歯科麻酔専門医
- 歯科医師臨床研修指導歯科医
- 福岡歯科衛生専門学校非常勤講師

地域歯科医院の先生方には、日頃より多くの患者さんをご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。私は、当院へ入職前、九州大学病院で長年勤務しておりました。口腔外科及び歯科麻酔科に在籍していましたので、その経験を生かして、日々の臨床に取り組んでおります。特に、様々な全身疾患を有する患者様の治療では、大学病院時代の経験が生きていると思います。また、救命救急処置も専門にしておりました。現在も講演などを通じて、歯科医院における救命救急処置の普及に精力的に取り組んでおります。今後も病診連携を大切にし、皆様と協力して地域歯科医療の充実と発展に寄与していきたいと考えております。

### 歯科口腔外科 医長 細川 瑠美子

九州大学歯学部出身

- 日本口腔外科学会口腔外科認定医
- 日本歯科麻酔学会認定医
- 日本抗加齢医学会専門医

2019年より当院で勤務しています。以前は大学病院口腔外科で研鑽を積み、歯科医院での診療も行っていました。当院では、医科の急性期の患者さんを診療することが多く、入院中に抜歯などの処置を行い、退院後の保存・補綴処置やメンテナンス等を地域の歯科医院の先生方へお願いすることが多々あります。いつも快くご加療頂き、感謝申し上げます。医科疾患で当院入院される患者さんは、歯科治療をほとんど受けたことがない患者さんや、治療中断したままの方も多いため、地域の歯科医院と患者さんを繋いで、地域医療の更なる発展に貢献できれば幸いです。





医療法人 徳洲会

# 福岡徳洲会病院

〒816-0864 福岡県春日市須玖北4丁目5番地  
TEL.092-573-6622(代表) FAX.092-573-1733

<https://www.f-toku.jp/>

総合外来予定表は  
ホームページをご参照ください。  
2025-06-TEAM010

